



【先週の礼拝メッセージ】ルカ 24:36~53 より

「復活された主が教えられたこと」

ルカは復活のイエスの教えを私たちに書き記してくれたが、今なお重要な教えである。

● 36~43 節 わたしは本当に生きている！

イエスはユーモアたっぷりに、弟子たちの真ん中に突然現れて「驚くな」と言い、弟子たちに自分のからだを触らせ、弟子たちの目の前で魚を食べて見せ、「ほらみろ、生きているだろ！」とおっしゃられた。神は私たちに復活に関する聖書の証言だけでなく、私たちの人生の中でも様々な事柄を通してご自身が生きておられることを示してくださる。

● 44~47 節 聖書（旧約）はわたしについて語っている！

エマオの二人や、11 弟子、その他の弟子たちに 40 日間イエスがなされた主要な教えは、旧約聖書のどの部分のご自身について語っており、預言がどのように成就したか、についてであった。旧約聖書には、全ての基礎となる「世界観」が示されており、「イエスはなぜ来られたのか」という問いに対する答えがすべて記されている。私たちも旧約を熱心に学び、福音の全貌を理解し、人々に分かち合えるようになりたい。

● 47~49 節 御霊に満たされてわたしの証人となりなさい！

世界中に福音を伝える務めのために弟子たちは選ばれ、私たちも選ばれている。上記二項目を確信し、理解していることは証人となるための大前提であるが、本当に力ある証人となるためには、それだけでは足りず、神の御霊に満たされる必要があったのである。この原則は現代においても同じであり、私たちは御霊に満たされて宣教に進むのである。

★ イエスの気持ちを考えよう！

イエスは、昇天までの短い時間に、世界宣教という大仕事を一握りの人たちに委ねようとしていた。今、私たちの数も少ない。しかし「少人数」+「御霊の力」=「リバイバル」であることを覚え、私たちも御霊の満たしを熱心に求め、主に用いられるようにしていこう！■

【人と比較する生き方の危険】

「世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。」第一ヨハネ2:15~16

●この聖書の言葉は私たちが幸せに生きようと思うなら、どうしても心に刻んでおかなければならないものです。ここで「世」と言われているものは「神さまから離れた世界があなたに幸せを約束するシステム」…つまり、物の考え方、哲学を指しています。このシステムによると人は、三つの分野（肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢）が満たされたら、幸せになれると言うのですが事実は正反対なのです。

●肉の欲：食欲、睡眠、性、等々の欲求は本来神が作られたもので良いものですが、限度を超えたり、ルールを破るとどうなるでしょうか。病気、貧乏、家庭破壊が起り、人は不幸せになります。

●目の欲：本来、創造性や、良いものを求める性質は神から来ており、奨励されるべきものです。しかし、衣服、宝石、自動車、旅行等々、より「いいもの」が次々欲しくなって、その「入手」が人生の目的になってしまうなら、非常にずれた人生をおくることになってしまいます。

●しかし最後の暮らし向きの自慢はもう一ひねり入ります。これはもはや何をどれくらい（分量）ではなくて、誰より多い、誰より少ない、と人と比較して「優越感」を味わう歪んだ世界です。「俺の方が凄いだろ～」と言っているうちはまだカワイイかも知れませんが、清貧に生きる宗教者が「私は良い車ではなく、主のために、こんなポンコツ車に乗っている」と言って密かに他を見下し、自分の宗教性を自慢するレベルになると深刻です。「暮らし向きの自慢」の世界に生きている人は、常に世界の中心に自分がいるため、人と真の関わりもつことができなくなってしまい、人間性そのものを喪失してしまう危機に瀕しているのです。